

五感満足四国

～駅弁と共にする汽車旅行、スローサイクリング～

旅行日程：2015年01月26日～2015年02月01日

旅行を企画して

旅行に出かけて

1. 伝統そのままの姿、内子自転車散歩
2. すっきりした海と共に、しまなみ海道サイクリング
3. 芸術の島で、直島サイクリング
4. 駅弁と共にする汽車旅行

旅行を仕上げて

所属: 釜慶大学校

名前: 金アルム

旅行を企画して

四国は九州と大阪に位置していながらも、特有の自然景観が優れて他の対都会では感じられない日本だけの雰囲気と隠れている魅力を感じれる地域である。それで四国だけの魅力をちゃんと感じるために、汽車旅行と自転車を利用したスローサイクリング (slow cycling) 旅行を企画することになった。

四国内の多様なサイクリングのコースの中でも、私が選んだ場所は愛媛県の伝統町である内子としまなみ海道、そして香川県の芸術の島で名を馳している直島であった。

6泊7日の日程だったが、地域間の移動が多かったため、実際の旅行時間はあまりなかった。それで内子町としまなみ海道、直島をメインコースとして置いて、旅行の日程を具体化させた。

また、移動の際にはできるだけ鉄道・電車を利用しながら、駅弁体験をすることにした。

旅行に出かけて

1. 伝統そのままの姿、内子町の自転車散歩

内子駅に下車し、町を歩いてみると、自転車をレンタルしてくれる小さなレンタルショップが目に入った。並んでいる自転車の中から気に入った自転車を1つ選んで、1時間に100円という値段で自転車をレンタルして、本格的な内子町の散歩を始めた。

内子は江戸時代である1600年から300年以上の間、蜜蝋と和紙で富を致した村である。現在は江戸時代の伝統家屋と技術を披露する愛媛の代表的な観光村になった地域で、内子の町並み伝統通りは保存地区にも指定されているところである。静かな雰囲気この村は600メートルの距離にかけて、両側に約100軒余りの伝統家屋が立ち並んであり、そのうち、90軒余りは今も運営されている。主に雑貨店や切手の販売店、工房などが運営されているが、町並み伝統通りが重要文化財に指定されているだけに、管理や保存にたいへんな努力を傾けていることが感じられた。

内子町での自転車散歩を終えた後は、内子町の市場である'ガラリ'に向かった。

内子は、グリーンツーリズムを実践している村であるながら、同時に地産地消を奨励する村で、ガ

ラリはそのような精神で農民が生産した様々な物を売っている市場だった。

小さな村であるにもかかわらず、自給自足の形式で農民たちが直接市場を開いて、その場所で生活に必要な物を売り買いすることが面白かった。

旅行に出かけて

2. すっきりする海と共に、しまなみ海道でのサイクリング



しまなみ海道は本州と四国を繋ぐ自動車道路で、橋に自転車用道路や歩行者用道路が設置されており、瀬戸内の多くの島々の美しさを楽しみながら、海上でのサイクリングを楽しむことができるため、サイクリングの名所として名前を知らせているところである。9つの島を橋で連結したルートで、その距離が約70kmに近いので、完走は難しいと思い、できるところまで挑戦してみることにした。幸いにも、しまなみ海道の所々にレンタルサイクルターミナルが位置しており、気軽にサイクリングを楽しむことができた。しまなみ海道でのサイクリングの始まりはJR今治駅からスタートだった。近くのレンタルショップで 申請書を作成した後、自転車1台につき保証金である1000円とレンタル費500円を支払ったら、レンタルすることができた。

かなり長い時間を自転車で走ってからやっと来島海峡大橋が出てくるという看板を見ることができたが、看板が見えて、 やや過ぎて一般道路から急に風景が変わる。9つの島を繋いだしまなみ海道が見えて、その上に位置する吊り橋が見える。しまなみ海道の吊り橋は世界で初めて3連続の吊り橋として知られているが、この吊り橋が目に入った瞬間、しまなみ海道に着く前までの苦労が一瞬に消えるような気がした。

涼しい風とともに、海道の上を走りながら、すっきりした風景を鑑賞していると、まるで別の世界にきたような感じがした。名状しがたい感動とともに、体が苦労したころも忘れて、より楽しく自転車に乗って大橋の上を走った。

しまなみ海道でのサイクリングがもっと良かった所は、断然、よく備わったシステムと言えるだろう。長いコースが細分化させていて、適当なところにレンタルショップとサービスエリアを共に配置しておくことで、サイクリングの素人でも負担持たずサイクリングに挑戦することができ、適当なコースで自転車を返却でくるとというのが特に良かった。

旅行に出かけて

3. 芸術の島で、直島サイクリング

香川県の直島は'芸術の島'で有名である。狭くて古い島が芸術家たちによって、現代の作品に再誕生したところで、建築美が目立つ美術館も位置している独特な島である。

島の風景をみながらサイクリングするのはしまなみ海道でのサイクリングや内子での散歩とはまた違う、特別な感じだった。特に道路がよく整備されていて、車がたくさん通り過ぎたりしなかった

ので、自転車に乗るには本当に楽という感じがした。この日はじっくり時間をかけて、建築家の安藤忠雄が設計した‘地中美術館’や、‘家のプロジェクト’というアートハウス・プロジェクトで有名な‘本村’などを見ながら島をサイクリングした。1つの芸術品になっている島を自転車に乗って、隅々を見ることができて、直島でのサイクリングはさらに特別だった。

旅行に出かけて

4. 駅弁とともにする汽車旅行



日本は鉄道システムがよく揃っており、そのため、‘駅弁’という特別な弁当も多様な品を揃えており、鉄道旅行という観光コースは、旅行客に脚光を浴びたコースの一つである。

最初の写真はJR四国で運営中であるアンパンマン列車で、3つの区間で運行しているという。列車の中に入ると、アンパンマンの可愛い声が案内放送をしてくれるし、所々アンパンマンと他のキャラクターが見られるととてもかわいい列車だった。‘アンパンマンの’の原作者の故郷が四国の高知県なので、駅弁売り場でもやはりアンパンマンの形の駅弁を販売していた。

4番目の列車は松山で運行中である‘坊っちゃん列車’で夏目漱石の小説である‘坊ちゃん’に登場する蒸気汽車で、1日に数少なく運行をしている列車である。市内までの短い距離だけを運行しているが、路面電車というのも珍しかったし、駅員も昔の駅員のユニホーム姿をされていて面白かった。3番目の写真の駅弁は‘ガンバレ四国’という名前を持っている弁当で、日本の駅弁コンテストで‘銀賞’を受賞した弁当だった。全国的に認められた駅弁であるだけに、味と構成も優れた。このような駅弁や鉄道は、移動時間さえ楽しくさせてくれて、体験して良かったと何回も思った。

旅行を仕上げて

今回の旅は私に特別な経験だった。1年間日本で留学生活や旅行の中で接した日本ではできなかった体験をたくさんしてきたためである。‘いつかは時間があれば、自転車に乗って、観光地を回って見よう’と漠と考えてきた夢を今度の旅行を通じて具体化し、体験してみながら、私が知っていたことよりもっと素敵な日本を体験することもできた。また、生まれて初めてしてみた自転車旅行を通じて、自転車旅行だけが与える面白さも十分分かるようになった。

また、短い日程で日本の国際線と国内線の飛行機をはじめとして、急行列車、普通列車、快速線、フェリー、高速バス、路面電車まで、様々な日本の交通手段を利用して見たが、日本は交通システムの整備が良くて、旅行しやすい国という考えをもう一度することになった。

6泊7日という短いといえば短いし、長かったと言えば長い時間を‘自転車と鉄道旅行’というテーマを決めて旅行をしながら、場所によって、それぞれの方式でサイクリングを楽しんだ時間は記憶の中に長く残っていると思う。また、大都会のような華やかさよりも、いつもその場所にいるような温かさを与える四国の風景もやはり長い間、心の中に残っているような気がする。